Year Book 2023

九州から世界へ!!
イノベーションの架け橋をつなぐ!!

Kyushu Open Innovation Center

KOIC
KYUSHU OPEN INNOVATION CENTER

一般財団法人 九州オープン
イノベーションセンター

Year Book 2023 の発刊に寄せて

（一財）九州オープンイノベーションセンター（KOIC）
会　長　　瓜　生　　道　明

2023 年度は、コロナ感染症の５類への変更により社会経済活動が正常化し、個人消費や円安によるインバウンドの回復が顕著となる等、明るい材料が出てきた一方で、人材不足、原材料・燃料の高騰に加え世界情勢の不安定化等の影響により、中小企業の経営環境は引き続き厳しい状況が続く一年でした。

こうした状況下、九州オープンイノベーションセンター（ＫＯＩＣ）はＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）に着目し、オープンイノベーションによってグローバル化および技術開発とベンチャーの創出を推進するとともに、変革を牽引する人材の育成等の各種事業を実施しました。
この３か年、ＫＯＩＣではＤＸをテーマに取り組んで参りましたが、この間に多くの機関等で同様の取り組みも増え、我々の先導的な取り組みは一定の役割を果たせたものと考え、2024 年度からはＧＸ（グリーントランスフォーメーション）をテーマに事業を展開してまいります。

2023 年度の実施事業のうち主なものをご紹介しますと、先ずテーマに掲げたＤＸに関する事業として、サイバー攻撃対策を学ぶ「DX with Cybersecurity 推進セミナー」やデータサイエンスやＡＩの活用で生産性の向上を図るワークショップ、フォーラムを開催しました。また、経営者層のＤＸ理解促進を２年前に始めた「九州デジタル経営塾」はフォローアップを中心に九州３か所で開催しました。次世代を担う人材育成としてＤＸとオープンイノベーションをテーマに「九州ネクストリーダー塾」も開催しました。

その他の分野では、「世界のオープンイノベーション拠点との交流事業」として東南アジア有数の先進企業の拠点であり、ユニコーンの約半数が拠点を置くシンガポールに注目し、「シンガポール・マレーシア経済交流ミッション」を派遣しました。大学のシーズからベンチャー企業を創出し産業化に向け支援していく「九州・大学発ベンチャー育成支援事業」を九州・大学発ベンチャー振興会議の事務局として運営し、ギャップ資金の提供等を行いました。
また、九州の産業成長戦略である「九州Ｅａｒｔｈ戦略Ⅱ」実現の一助として、オープンイノベーションによるモノづくり基盤や先端技術等の事業化によるイノベーション創出に向け、研究開発型中小企業の課題の発掘から事業化まで一貫した伴走支援にも取り組んでいます。
加えて、ＫＯＩＣ設立４年目を迎え、地域の皆様に一層の認知をいただくため、これまでの活動内容を盛り込んだＫＯＩＣのプロモーションビデオを作成しました。

ＫＯＩＣは「課題解決先進地域 九州」を実現すべく、賛助会員をはじめ、頑張る中堅・中小企業のために、九州経済産業局、産業技術総合研究所九州センター、中小企業基盤整備機構九州本部、九州経済連合会、九州イノベーション創出戦略会議、九州・大学発ベンチャー振興会議、等の関係機関と密接に連携し、地域の皆様からの信頼と期待に応えられる九州全域をカバーする広域的な産業支援機関としての役割を果たして参りますので、これからも皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目　　次

Year Book2023 の発刊に寄せて（会長挨拶）

頁

Ⅰ.運営概要　・・・

③機械工業振興チャレンジ研究調査（公募）　・・・・・・・・・・　１６
④展示会出展・成果報告会・セミナー　・・・・・・・・・・・・・・　１７
（３）成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech 事業）　・・・・・　１８
（４）他機関との連携事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９
３．啓発普及事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９
（１）ソーシャルイノベーション実践交流会　・・・・・・・・・・・・・　１９
（２）九州経済を考える懇談会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０
（３）地域技術交流事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
①九州・沖縄地区国立大学法人産学官連携関連センター長等会議　・・　２１
（４）カーボンニュートラル（CN）普及啓発事業　・・・・・・・・・・・　２１
①展示会出展　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
②会議開催　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２
③日台グリーンサスティナブルおよびスタートアップ交流会　・・　２２
④ベトナムミッション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２
４．人材育成事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
（１）九州デジタル経営塾　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
（２）九州ネクストリーダー塾　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４
（３）若手研究者海外研究交流支援事業　・・・・・・・・・・・・・・・　２５
５．情報提供事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
（１）デジタルメディアを活用した情報発信　・・・・・・・・・・・・・　２６
（２）活字媒体による情報発信　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
６．収益事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７
（１）成功報酬型コーディネート事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７
①活動実績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７
②成功報酬型の契約と報酬実績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７

◎　戦略産業の振興（ 2023 年度の K-RIP、HAMIQ の事業概要 ）　・・・　２９

【参考資料】

ＫＯＩＣ　２０２４（令和６）年度　事業計画の概要

Ⅰ．運営概要

1．名　　称　一般財団法人 九州オープンイノベーションセンター
　　英文表記　Kyushu Open Innovation Center　　略称：KOIC

2．設　　立　2020（令和２）年４月１日

3．設立目的

九州地域において、オープンイノベーション等による産業技術の振興及び新技術の創出に関する諸事業を総合的かつ効率的に推進することにより、九州地域の活性化を図り、もって我が国経済の健全な発展に寄与することを目的としています。

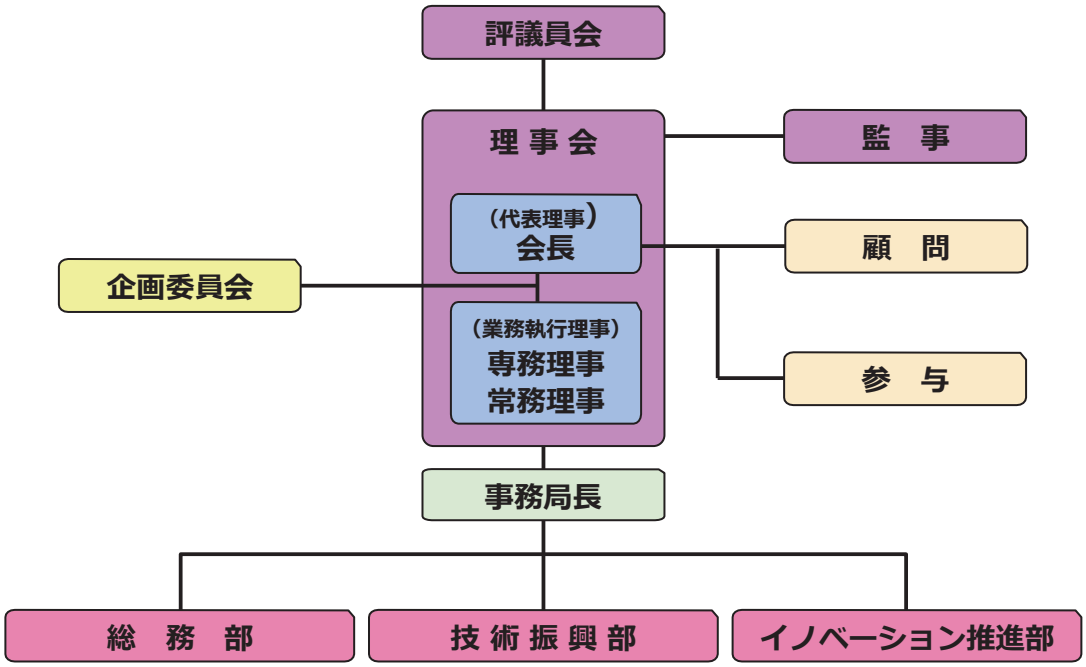
4．事業内容

イノベーション等に関する支援
産業技術の振興に関する支援
新事業の創出に関する支援
その他この法人の目的を達するための必要な事業

5．所 在 地　〒812-0013 福岡市博多区博多駅東２丁目１３番２４号
　　電　　話　092（411）7391（代表）　ＦＡＸ　092（472）6609
　　Web Site　https://www.koic.or.jp

6．敷地及び建物
　　敷　　地　敷地面積　263.82 ㎡
　　建　　物　建築面積　199.80 ㎡　延床面積　603.76 ㎡
　　鉄骨造　地上３階建

7．組　　織



2024.4.1 日現在

Ⅱ．設立趣旨

一般財団法人九州産業技術センターは、1985（昭和 60）年６月に設立以来、産業技術の普及、啓発等に関する諸事業を総合的、かつ効率的に推進することにより、九州地域における産業技術の振興を図ることで、技術の高度化や新産業技術の発展に貢献してきた。

一方、1987（昭和 62）年 12 月に設立された一般財団法人九州地域産業活性化センターは、九州地域における産業の活性化に関するグランドデザインの調査研究及び大学発ベンチャー、IoT 事業、女性活躍事業等の推進による新事業の創出を通じ、九州の産業の活性化に貢献してきた。

しかし、近時の経済社会の変化は、両センターのこれまでの事業では解決できないほどの大きな変化に直面している。

特に、市場の成熟化と多様性に加え、あらゆるモノがインターネットに繋がり、情報がやりとりされ、その情報が価値を生み出すデジタル化とグローバル化の進展を背景として、技術革新のスピードが早まっている。この様な中で、カスタマイゼーション、シェアリングビジネス、データエコノミーなどの新事業やビジネスが発生している。

また、人口減少と少子高齢化等の社会的な課題を解決するための生産性向上、人材の育成、新製品・サービスの開発なども急務となっている。

この様な経済社会の大きな変化に対し、単独の企業の経営資源のみでの対応には限界があり、外部の経営資源と組み合わせて、時代のニーズや課題に即応した新商品やサービス及び新たな価値を創出するオープンイノベーションが期待されている。

この様な期待に応えるため、オープンイノベーションの視点から、両財団の技術開発支援機能や産学連携による新事業創出機能、グランドデザインの調査機能や新事業創出機能を統合し、新たにオープンイノベーション機能を追加し、国内外の市場動向の把握から技術開発・産学連携・人材育成まで一貫した事業化支援機能を有した新組織（プラットフォーム）を設立する。

Ⅲ．沿　　革

2018（平成 30）年 10 月　九州オープンイノベーションセンター構想研究会（仮称）設置
2018（平成 30）年 11 月　第 1 回九州オープンイノベーションセンター構想研究会開催
（議長;九州電力㈱代表取締役会長　瓜生道明）
2019（平成 31）年　2 月　第 2 回九州オープンイノベーションセンター構想研究会開催
2019（平成 31）年　4 月　第 3 回九州オープンイノベーションセンター構想研究会開催
2019（平成 31）年　4 月　合併合意覚書締結
（一般財団法人九州産業技術センターを存続法人、一般財団法人九州地域産業活性化センターを消滅法人として吸収合併する）
2020（令和　2）年　4 月　名称変更登記、合併届出提出（内閣府）
九州オープンイノベーションセンター開所式開催
2020（令和　2）年　9 月　合併届出承認（内閣府）

Ⅳ．事業概要

１．振興支援事業

(1)オープンイノベーションによる新事業創出支援事業

① 世界のオープンイノベーション拠点との交流事業

近年、東南アジアでも有数の先進企業の拠点として注目を集め、ユニコーンの約半数が拠点を置くシンガポール・マレーシアに注目し、イノベーション、デジタルの政策を推進している政府機関や先端企業、スタートアップ企業などの実態を視察し、現地企業やスタートアップ企業との連携、協業、投資などについて相互に経済交流を深めることを目的に瓜生会長を団長とする「シンガポール・マレーシア経済交流ミッション」を派遣した。

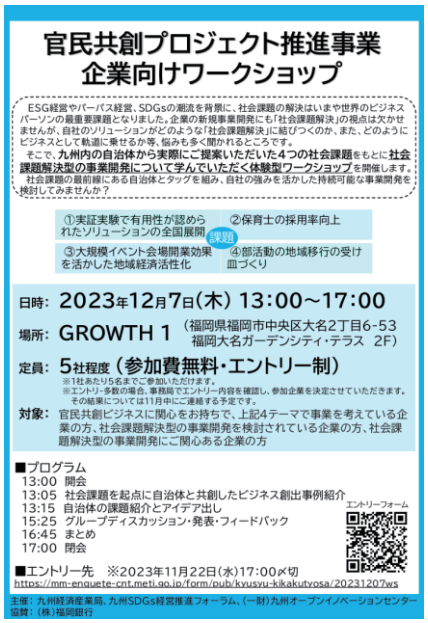
■シンガポール・マレーシア経済交流ミッション　スケジュール

派遣期間	日	時間	内容	備考
1月１６日 ～ 1月２０日 参加者:24名	１６日 (火)	7:15－15:20	福岡⇒シンガポール　SQ655	シンガポール航空
		19：00-	結団式（夕食会）	ペニンシュラ・ エクセルシオール
	１７日 (水)	9:00- 9:30-10:30	出発 シンガポール経済開発庁（EDB） 表敬訪問	
		11:00-12:00	シンガポールビジネス連盟(SBF) 表敬訪問	団長他数名の参加
			（昼食）	
		13:00-14:00	情報通信開発庁（IMDA） PIXEL イノベーションハブ訪問	本団
		15:00-17:30	九州経済界・シンガポールビジネス連盟・セムコープ 合同経済交流セミナー	セムコープ・ インダストリーズ
		18:00-	九州・シンガポール 経済交流・夕食会	ペニンシュラ・ エクセルシオール
	１８日 (木)	6:30-	出発 シンガポール ⇒マレーシア　SQ108	シンガポール航空
			（昼食）	
		14:00-15:00	マレーシア投資開発庁（MIDA） 表敬訪問	
		15:45-16:45	マレーシア技術革新アクセラレーター（MRANTI）　訪問	
		17:45-18:15	マレーシア日本人商工会議所 （JACTIM）　訪問	団長他数名の参加
		18:30-	九州・マレーシア 経済交流・夕食会	グランドミレニアム・ クアラルンプール
	１９日 (金)	9:00	出発	
		10:00-11:30	マレーシアデジタルエコノミー公社（MDEC）　表敬訪問	
			（昼食）	
		14:45-16:00	Cyber view 訪問	
		18:00-21:30	クアラルンプール ⇒シンガポール　SQ125	シンガポール航空
	２０日 (土)	01:20-8:20	シンガポール⇒福岡　SQ656	シンガポール航空

② CSV 経営※の実現に向けたビジネスモデル創出支援事業

九州内の中小企業のＳＤＧｓへの理解の増進を図り、ＳＤＧｓ経営の具体的な取り組みを後押しするため、九州産業経済局・九州ＳＤＧｓ経営推進フォーラム(会員数 998)と連携しながら、ＣＳＶ経営の普及・啓発を目的とした次の活動を実施した。

※「ＣＳＶ経営」とは：地域・社会課題解決と企業の収益性の両立を目指す取り組み



開催日・場所	実施概要
8 月 8 日（火） 参加者：164 名 場　所：オンライン	●「官民共創プロジェクト推進セミナー」 ・テーマ　逆転の発想による企業と自治体の新しい出会い方 ・対　象　地域・社会課題を有する自治体、SDGs 経営に関心のある事業者 ・講　師　㈱ソーシャル・エックス　伊藤大貴　氏 ・満足度　92%（大いに満足 31%、満足 61%）
10 月 26 日（木） 参加者：４自治体 10 名 場　所：GROWTH 1	●「官民共創プロジェクト推進事業」自治体向けワークショップ ・テーマ　社会課題の言語化とは ・対　象　応募４自治体（直方市、飯塚市、佐賀市、鳥栖市） ・講　師　㈱ソーシャル・エックス　伊藤大貴　氏、志賀久美子　氏 ・満足度　100%（大いに満足 30%、満足 70%）
12 月 7 日（木） 参加者：9 社 18 名 場　所：GROWTH 1	●「官民共創プロジェクト推進事業」企業向けワークショップ ・テーマ　社会課題を起点とした事業開発 ・対　象　官民共創ビジネスに関心があり、課題４テーマで事業を検討中の企業 ・講　師　㈱ソーシャル・エックス　伊藤大貴　氏、志賀久美子　氏 ・満足度　100%（大いに満足 56%、満足 44%）
２月６日（火） 参加者：43 名 場　所：GROWTH 1 （一部オンライン）	●「官民共創プロジェクト推進事業」取組報告会 ・テーマ　官民共創の新しい形、ワークショップ参加自治体・企業の取組報告 ・対　象　地域社会課題を解決しようとする自治体・企業等 ・講　師　㈱ソーシャル・エックス　伊藤大貴　氏 ・満足度　93%（大いに満足 52%、満足 41%）

また、地域で持続的な社会課題解決の担い手となる中小企業を創出するエコシステムの構築に向けた取り組みが期待されている中、エコシステムの中核となる中間支援団体※に関する調査事業を実施した。

調査期間：2023（令和 5）年 12 月～2024（令和 6）年 2 月

調査方法：公開情報の収集、調査対象企業・団体へのインタビュー（オンライン）

調査対象：九州に活動拠点を置く中間支援団体 5 社

調査項目：設立経緯、ステークホルダー、事業内容、具体事例、活動実績、今後の展望

※「中間支援団体」とは
「多元的社会における共生と協働という目標に向かって、地域社会とＮＰＯの変化やニーズを把握し、人材、資金、情報などの資源提供者とＮＰＯの仲立ちをしたり、また、広義の意味では各種サービスの需要と供給をコーディネートする組織（内閣府『中間支援組織の現状と課題に関する調査報告』）」

(2)九州・大学発ベンチャー育成支援事業

大学発ベンチャー企業創出のため、九州・沖縄の大学、産業界、ベンチャーキャピタルをつなぐプラットフォームとして平成２９年に設立された「九州・大学発ベンチャー振興会議※（事務局：ＫＯＩＣ）」は、ギャップ資金やアントレプレナーシップ教育等の提供を行い、大学のシーズからベンチャー企業を創出するエコシステムの構築を図ってきた。

今年度は、本会議の周知と活動の理解を図るためホームページの開設を行うとともに、新規企業会員の募集活動を積極的に行い６社が入会（3 社退会）した。また国立研究開発法人科学技術振興機構（ＪＳＴ）の大学発新産業プログラムに採択されたプラットフォーム（通称ＰＡＲＫＳ。主幹機関：九州大学、九州工業大学）に新たに参加した 3 大学（合計１８大学）とも連携し、さらなるエコシステムの充実を図った。

本会議の活動としては８月に実務担当者による「第 8 回九州・大学発ベンチャー振興実践会議」を開催し、１３大学から２７ 件のシーズが提出され、また令和２年度から始めた企業のニーズから大学のシーズを探索しマッチングさせる事業では１２企業から２４件のニーズが提出された。その後、企業からのギャップ資金提供の調整を行い、１月に２７件の大学のシーズに対し２，４００万円を提供した。（うちＫＯＩＣは、１０件のシーズに６００万円を提供）

また、２４件の企業ニーズに対し１９件の大学シーズが提出され、順次マッチングを行い１件が共同研究予定、１０件が協議継続中、５件が協議終了となっている。

この他、本会議が今年度把握した成果として、過去シーズの内、新たに 5 社（合計 14 社）が資金調達に成功し、４社（合計 25 社）のベンチャー企業が設立された。また過去の企業、大学のマッチングの中から８件の共同研究が開始され、２件が共同研究開始予定である。

２月には、代表者による「第 8 回九州・大学発ベンチャー振興会議」を開催し、今年度の活動報告を行い、来年度も同様の活動を行うことが承認された。

※九州・大学発ベンチャー振興会議（2023（令和 5）年 12 月末現在）：１８大学（準会員４校含む）、２２事業会社、１０金融機関、１生保、3ＶＣ、６経済団体で構成

■ギャップ資金提供先のうち KOIC 提供先

No.	大学	研究開発の名称	所属	研究者名	提供額
1	長崎大学	地域コミュニティ向け回覧板とメタバースを同時生成する Paper Metaverse の研究開発	情報データ科学部教授	小林　透	500,000
2	長崎大学	お茶に特化した生育管理指標「tea-NDVI」の開発と「tea-CLOUD」構築研究	情報データ科学部教授	全　炳徳	500,000
3	熊本大学	衛星データ等活用による熊本沿岸域の生物多様性保全と新規事業提案	くまもと水循環・減災研究教育センター教授	逸見　泰久	500,000
4	北九州市立大学	脳機能賦活を誘起する手指リハビリテーション支援統合システムの企業化について	環境技術研究所教授	松田　鶴夫	500,000
5	北九州市立大学	低消費電力・高性能な　CPU・ウェブアプリ・データフロープロセッサ統合　３次元集積回路の論理設計	国際環境工学部准教授	山崎　進	500,000
6	福岡大学	拡張現実技術を用いた新規脳手術用ナビゲーションシステムの開発	福岡大学病院 脳神経外科診療　准教授	森下 登史	500,000
7	福岡大学	遺伝子治療の効果を増強させるペプチドベースの送達システム	医学部解剖学講座　准教授	貴田 浩志	1,000,000
8	福岡大学	感染症検査を効率化する診断支援 AI	医学部微生物・免疫学講座　講師	尾鶴 亮	1,000,000
9	福岡工業大学	自動操縦ドローンの GPS 補完 AI 技術	情報工学部情報工学科　教授	種田 和正	500,000
10	福岡工業大学	高齢者自立支援のための俳句を利用した対話システム	情報工学部情報工学科　教授	馬場 謙介	500,000
				提供金額計	**6,000,000**

■振興会議にシーズを提出後、設立されたベンチャー企業（25 社）

No.	大学	研究開発の名称	提出年度	設立企業名	企業設立時期
1	九州大学	九大カイコバイオリソースと昆虫工場を用いた難発現性タンパク質の大量生産システム	2017 年度	KAICO㈱	2018 年４月
2	福岡大学	不妊症における治癒不能な子宮内膜着床不全の治療法の開発	2017 年度	㈱キュベレ	2018 年８月
3	九州大学	接触圧センサ体ウェアラブル血流計血流計の開発	2017 年度	Palmens㈱	2019 年３月
4	宮崎大学	宮崎県沿岸域における循環型サクラマス養殖生産事業の定着化	2018 年度	㈱Smolt	2019 年４月
5	九州工業大学	柔軟膜で包み込んで対象物を把持する新しいロボットハンドの開発	2017 年度	KiQ Robotics㈱	2019 年４月
6	宮崎大学	高機能性ヒト抗体開発シーズ	2018 年度	MabGenesis ㈱	2019 年６月
7	佐賀大学	座圧軽減装置”フワット”の販売事業	2019 年度	㈱山城機巧	2019 年８月
8	宮崎大学	増殖困難な果樹台木苗の作成	2019 年度	㈱RIFNUM	2019 年 10 月
9	九州大学	生態学を体験して学ぶための教育支援アプリケーション開発	2019 度	㈱サイエンスグルーヴ	2019 年 10 月
10	九州工業大学	介護系行動認識システムおよび行動認識技術の汎用化プラットフォームの開発	2018 年度	(合)AUTOCARE	2020 年２月
11	九州大学	音声明瞭化技術	2019 年度	サウンド㈱	2020 年４月

12	宮崎大学	楽しみながら「ロコモ」を改善するロボットシステム	2020 年度	LOCOBOT㈱	2020 年7月
13	九州大学	燃焼後排ガスからＣＯ２を低コストに分離し貯留、供給する装置	2020 年度	㈱日本炭素循環ラボ	2020 年 12 月
14	琉球大学	海藻養殖における夏場の海水冷却システムの開発	2019 年度	㈱リテックフロー	2019 年 11 月
15	佐賀大学	AS Order：キャッシュレス決済で「安心モバイルオーダー」を地方から	2021 年度	㈱ＡＳ	2020 年 10 月
16	鹿児島大学	古い機器画面の目盛りをデジタルデータに変換する事業ー反射光除去 OCR 技術	2021 年度	㈱メタシステム研究所	2021 年６月
17	福岡大学	全身投与可能なステルス化腫瘍溶解性ウイルスの開発および社会実装	2021 年度	JOCAVIO㈱（ヨカヴィオ）	2021 年８月
18	熊本大学	Staple 核酸	2021 年度	㈱Ｓｔａｐｌｅ Ｂｉｏ	2021 年 11 月
19	長崎大学	病気を媒介する昆虫対策に必要な研究・フィールドワーク用品の開発とその商品化	2020 年度	㈱フィールドワーカーズ	2022 年６月
20	琉球大学	小学生向け グローバル型 探求学習プログラムの開発および実践の仕組みづくり 事業	2021 年度	一般社団法人Q ラボ	2022 年 11 月
21	鹿児島大学	ガン標的ウイルスの医薬品開発、iPS 細胞の腫瘍化根絶のベクター技術の開発、難治性肝疾患根治医薬品の開発	2017 年度	サーブ・バイオファーマ㈱	2022 年８月
22	大分大学	竹を原料とする繊維と超高純度セルロースナノファイバーおよびそれらの炭化物	2017 年度	㈱おおいたCELEENA	2021 年９月
23	九州大学	活性調節ゲノム編集プラットフォームによる新規遺伝子治療法の開発と実用化	2022 年度	One Genomics, Inc.	2023 年２月
24	九州工業大学	球駆動式全方向移動装置	2019 年度	㈱TriOrb	2023 年１月
25	琉球大学	慢性腎臓病重症化予防のための多職種連携ビジュアルツールの開発	2018 年度	㈱サステインハピネス	2023 年 10 月

(3)九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト支援事業

一般社団法人九州ニュービジネス協議会と連携し、ベンチャー企業創出を目的に、九州地域の大学に眠るシーズの発掘を行い、大学生、高専生を中心とした若者の創造力とチャレンジ精神を養うための事業計画書（ビジネスプラン）の作成を支援し、またプレゼンテーション能力を養成する場を提供している。

今年度は、九州７県の１７大学（大学院含む）、２高専の合計１９校から合計 42 プランの応募があった。第１次審査（書類審査）で２０プランに絞り込み、第２次審査会では、ベンチャーキャピタリスト、地場企業のオープンイノベーション担当者、専門家（公認会計士、弁理士等）で構成される専門審査委員会が、予め発表者により制作された「３分動画」を審査し、コンテスト出場９プランを決定した。

その後、１１ 月に最終プレゼンテーション審査（コンテスト）を一般公開の下で開催し、各プランがプレゼン５分、質疑応答８分の後、専門審査委員会による審議により「グランプリ」「九州経済産業局長賞」「九州経済連合会長賞」等、各賞が決定され、「グランプリ（１位）」受賞者は「キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」に出場し、「日刊工業新聞社賞」を受賞した。

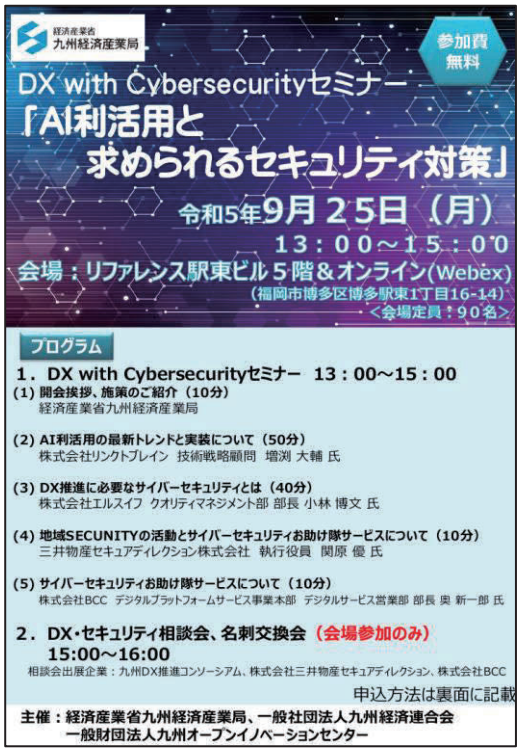
なお、2017（平成２９）年以降、本コンテストを契機として 16 プランが起業化、３プランが起業化に向けて進捗している。

(4) DX 推進事業

九州経済産業局と連携し、DX 推進の各種事業を実施した。

「DX with Cybersecurity 推進事業」は、増加するサイバー攻撃に対してサプライチェーン全体での対応が求められる中、経営者・従業員の意識向上やインシデント発生時の迅速な対応が課題となっていることから、中小企業・団体を対象に、最新インシデント事例やサイバー攻撃対策を紹介するセミナーを開催した。

また、企業活動の中でデータサイエンスやＡＩ等を利活用することで生産性の抜本的向上が期待されていることから、ＡＩのユーザー・支援企業双方からの導入事例・活用のポイントや産学連携のプロジェクト事例等を紹介し、企業のデータサイエンス・ＡＩへの関心層の拡大と活用企業の増加を目的とするワークショップやフォーラムを開催した。



開催日	実施概要
9月25日（月） 参加者：（会場）21名 （オンライン）68名 場　所：ﾘﾌｧﾚﾝｽ駅東ﾋﾞﾙ （博多駅）	●「DX with Cybersecurity セミナー」 ・テーマ　AI利活用と求められるセキュリティ対策 ・対　象　九州の中小企業・団体 ・講　師　㈱リンクトブレイン　技術戦略顧問　増渕　大輔 氏 ㈱エルスイフ　クオリティマネジメント部　小林　博文 氏　他 ・満足度　61%（大いに満足25%　満足36%）
10月23日（月） 参加者：32名 場　所：久留米シティ プラザ	●「ＤＸ入門・ＡＩ導入講座」（共催：久留米市） ・テーマ　ＡＩ導入ワークショップ ・対　象　筑後地区の企業・団体 ・講　師　㈱グルーヴノーツ　赤星　良輔　氏 ㈱ストラテジア　前田　憲太郎　氏 ・満足度　86%（大いに満足33%　満足53%）
11月14日（火） 参加者：30名 場　所：久留米シティ プラザ	●「ＤＸ基礎・データ活用講座」（共催：久留米市） ・テーマ　データ活用ワークショップ ・対　象　筑後地区の企業・団体 ・講　師　㈱グルーヴノーツ　赤星　良輔　氏 北九州工業高等専門学校　教授　久池井　茂　氏 ・満足度　95%（大いに満足58%　満足37%）
2月22日（木） 参加者：125名 場　所：久留米工業大	●「産学連携ＤＸ推進フォーラム in 久留米」（共催：久留米市） ・テーマ　産学連携推進の取り組み（大学から、企業から）、 社会でのデータ・ＡＩ活用事例講座 ・対　象　筑後地区の企業、団体、自治体、大学生、高専生 ・講　師　久留米工業大学　学長補佐・教授　大森　洋子　氏 〃　〃　小田　まり子　氏 ・満足度　92%（大いに満足43%　満足49%）

(5)九州の戦略産業の振興

① 環境・エネルギー分野(Ｋ－ＲＩＰ事業)

九州環境エネルギー産業推進機構（Ｋ－ＲＩＰ、会員数 270）の事務局として、地方自治体における地域・社会課題の発掘と解決に向けた事業を行うとともに、会員企業等の ESG 経営の推進や、ベトナム、タイ、インドネシア等における事業展開の支援などを行った。

（ｉ）地域・企業共生ビジネス導入・創業促進事業（地域課題の発掘と解決に向けたマッチング）

（経済産業省の委託事業）

福岡県直方市、佐賀県唐津市および熊本県合志市が抱える地域・社会課題の解決を支援するため、それぞれの自治体が抱える環境問題への対応など、地域・社会課題の発掘のためのミーティングや、その解決のため様々な取り組みを行った。

具体的には、地域・社会課題の解決に向けた啓発セミナーの開催をはじめ、外部専門家や地元企業を交えたワークショップの開催、解決に資する事業を展開している企業とのマッチング、同様の取り組みを普及させるための報告会等を行った。

■各自治体の地域・社会課題

自治体名	内　　容
直方市	地元企業（製造業）の省エネルギーの推進
唐津市	地域資源（虹の松原の松葉、廃プラスチック等）の循環
合志市	地元企業（製造業）の脱炭素の推進

(ⅱ) ESG 経営に向けた伴走支援等業務委託（福岡市の委託事業）

福岡市における中小企業の ESG 経営を支援するため、ESG 経営に関する啓発セミナーの開催や、参加企業の課題解決に向けた伴走支援、同様の取り組みを普及させるための報告会等を行った。

参加企業は、海外投資家や国内企業の取引先から求められつつある ESG 経営のうち、特に脱炭素を推進していくにあたって、外部コンサルを活用して、課題解決に向けた取り組みを行った。

■参加企業の ESG 経営推進のため取り組み

企業名	内　　容
A 社	製品の環境認証ラベル（エコリーフラベル）の取得
B 社	製造ラインの CO2 削減に向けた熱効率向上策の検討
C 社	太陽光発電設備の保守点検サービスによる温室効果ガス排出量削減効果の算定

(ⅲ) 福岡県環境関連企業の海外展開支援業務（福岡県の委託事業）

福岡県の環境関連企業のベトナムおよびタイにおける事業展開を支援するため、昨年度実施した「福岡県環境技術ビジネス WEB セミナー」の参加企業を中心に、ベトナム、タイの現地企業等とのオンライン商談を行った。

具体的には、現地コーディネータが、参加企業 15 社の事業展開ニーズを踏まえ複数抽出した現地企業・政府機関と商談や意見交換を行った。

(ⅳ) グリーンテック関連分野ベトナム企業とのビジネスマッチング等業務

（福岡アジアビジネス支援委員会の委託事業）

福岡市のグリーンテック関連企業※のベトナムにおける事業展開を支援するため、10 月にホーチミン市で開催された展示会「VIETWATER 2023」に合わせ、参加企業 5 社と現地を訪問し商談を行った。

具体的には、訪問前にオンラインで現地商談候補企業と事前商談を行ったうえで、現地を訪問し商談を行った。

※ 資源や環境の保護に資する製品や技術、サービス等を有する企業

■ベトナムミッションの参加企業

企業名	対象事業・製品
D 社	酸素・窒素ガス発生装置
E 社	水処理、海水淡水化
F 社	雨水利用システム
G 社	非接触式流量計・水位計
H 社	生物を用いた水質監視装置

（ｖ）脱炭素社会構築に向けた九州・インドネシア連携プロジェクト形成・促進事業

（本事業の一部は（一財）貿易・産業協力振興財団の助成事業を活用）

脱炭素関連分野の技術を有する九州域内企業のインドネシアにおける事業展開を支援するため、コーディネータが抽出した現地企業とオンラインで商談を行うとともに、２月にインドネシア・ジャカルタ特別市などを訪問し商談、意見交換を行った。

具体的には、訪問前に参加企業の PR 動画を作成し YouTube に掲載するとともに、現地商談候補企業とオンラインで事前商談を行った。２月には、参加企業 6 社および行政関係者と現地を訪問し、商談・意見交換を実施するとともに、参加企業Ｌ社は現地企業と「太陽光発電の保守事業推進に向けた覚書」を締結した。

■インドネシアミッションの参加企業

企業名	対象事業・製品
Ｉ社	焼却灰のリサイクル
Ｊ社	産業廃棄物中間処理
Ｋ社	石炭灰リサイクルによる透水・保水性舗装
Ｌ社	太陽光発電所の保守
Ｍ社	規格外野菜を用いた野菜シートの製造販売
Ｏ社	雨水利用システム

② 医療機器・ヘルスケア分野(ＨＡＭＩＱ事業)

九州ヘルスケア産業推進協議会(ＨＡＭＩＱ、会員数 164)の事務局として、九州の半導体や自動車産業で蓄積した精密加工技術等を活用した医療機器分野への参入、医療・介護機関とサービス事業者のコラボレーション、医療機器メーカーの販路開拓、海外事業展開の支援を行った。また、ヘルスケア分野、医療分野でのＡＩやＩｏＴ技術の活用、サービスに係る需要創出等を目的に専門家を配置し支援を行った。

（ｉ）地域連携拠点自立化推進事業（国立研究開発法人日本医療開発機構の委託事業）

国立研究開発法人日本医療開発機構（ＡＭＥＤ）の地域連携拠点自立化推進事業の採択を受け、九州内の自治体、支援機関、大学等と医工連携の連携を深めた。

案件初期段階からグランドデザインを描き事業計画に基づいた伴走支援体制の構築を進め、「作ったけど売れない」から「売れる視点」の医療機器開発支援体制を整備した。

また、大学からの具体的な研究開発案件の相談に対して公募への申請支援や資金的支援への橋渡し、大学内の産学連携機関などからの相談にも対応した。

実施事項	実施概要
案件発掘事業	九州圏内の大学より研究開発案件の相談が増え、AMED や Go-Tech への申請を支援し採択の実績につながった
専門家人材の充実	全国から医療機器開発に対して豊富な経験を持つ大手医療機器メーカーの OB に専門支援人材になっていただき、開発から海外展開まで幅広くアドバイスできる体制を整えた

情報提供拠点	ホームページを活用して医療機器開発に重要なマーケティングのための市場規模調査ツールを開発し、解説動画とともに HAMIQ ホームページで支援機関向けに限定配信した
人材育成プログラム	昨年度から実施してきた医療機器開発支援人材育成のため Web セミナーの動画と資料をアーカイブ化。HAMIQ ホームページに限定掲載し、再利用可能とした、

2．産業技術振興事業

(1)オープンイノベーションによる産業技術の振興

① 技術ニーズマッチング支援

九州イノベーション創出戦略会議（ＫＩＣＣ）と連携し、企業等のニーズ・シーズの情報提供やコーディネータによるマッチング活動を推進し、新事業の創出を支援した。

また、オープンイノベーション気運の醸成を図り、特に中堅・中小企業とスタートアップ企業の共創を推進するため、オープンイノベーション推進のポイントや先行事例および支援施策等を広く企業や自治体に周知するオープンイノベーションフォーラム『Co-Create Future KYUSHU～中小企業とスタートアップの挑戦～』を九州経済産業局と共催で開催した。

開催日	セミナータイトル	実施概要
２月２８日	Co-Create Future KYUSHU ～中小企業と スタートアップの挑戦～	・会場：アクロス福岡（福岡市） ・参加者：会場 84 名、オンライン：116 名 ・基調講演 (株)浜野製作所　代表取締役 浜野慶一 氏 ・施策説明 ・スタートアップの OI 事例発表 ・パネルディスカッション ・名刺交換会

② 九州イノベーション創出戦略会議（ＫＩＣＣ）

九州イノベーション創出戦略会議（ＫＩＣＣ）の事務局として、九州の大学・高専・公設試等、６２機関と連携し、企業の技術課題解決に資する活動を支援した。

(ｉ) 通常総会・特別講演会の開催

７月２５日に博多サンヒルズホテル（福岡市）にて開催

通常総会	2022（令和４）年度事業実績報告(案)､2023（令和５）年度事業計画（案）、役員等の選任（案）について全て承認
特別講演会	講演１：データ連係によるモノづくりからコトづくりへの展開 （国研）産業技術総合研究所インダストリアル CPS 研究センター長 谷川　民生 氏 講演２：ベンチャーエコシステムとオープンイノベーション (株)ケイエスピー　代表取締役社長　　窪田　規一 氏

(ⅱ)KICC 構成機関のコーディネータ間ネットワーク構築

昨年度に訪問した KICC 構成機関との意見交換内容を反映し、「コーディネータの顔が見える関係づくり」のため、産業支援機関コーディネータ交流会を開催した。

開催日	参加者数	参加産業支援機関
11 月 29 日	参加者 32 名	①九州オープンイノベーションセンター、②九州先端科学技術研究所、③福岡県産業・科学技術振興財団、④北九州産業学術推進機構、⑤飯塚研究開発機構、⑥久留米リサーチ・パーク、⑦佐賀県産業振興機構、⑧長崎県産業振興財団、⑨くまもと産業支援財団、⑩大分県産業創造機構、⑪宮崎県産業振興機構、⑫かごしま産業支援センター

(ⅲ)ＫＩＣＣホームページの改修・更新

（開放機器情報、ＫＩＣＣ構成機関コーディネータ・マネージャー情報）

ＫＩＣＣのホームページから検索できるＫＩＣＣ構成機関の開放機器データベースの情報を更新し相互利用の促進を行うとともに、ＫＩＣＣ構成機関のコーディネータ、マネージャー情報を更新し企業等の技術相談等の推進を行った。

なお、昨年度に訪問した KICC 構成機関との意見交換内容を反映し、開放機器データベースの更新作業にかかわる負担軽減および効率化のためホームページの改修を実施した。

(ⅳ) ＫＩＣＣ構成機関（62 機関）との意見交換

昨年度に引き続き、公設試、産業支援機関、大学・高専の 20 機関を訪問し、ＫＩＣＣ事業の紹介や開放試験機器データベース、コーディネータ等の情報活用の活性化策等に関して意見交換を行った。

意見交換 機関 （20 機関）	鹿児島大学、北九州市立大学、早稲田大学、 熊本工業高等専門学校、大分工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校、 佐賀県工業技術センター、宮崎県工業技術センター、宮崎県食品開発センター、 鹿児島県工業技術センター、 （公財）福岡県産業・科学技術振興財団、（公財）佐賀県産業振興機構、 （公財）くまもと産業支援財団、（公財）大分県産業創造機構、 （公財）宮崎県産業振興機構、（公財）かごしま産業支援センター、 （株）産学連携機構九州、（株）鹿児島ＴＬＯ、 農業・食品産業技術総合研究機構、九州地域バイオクラスター推進協議会

(2) 九州Ｅａｒｔｈ戦略Ⅱ実現に向けた新事業創出事業　【ＪＫＡ補助事業】

九州の産業成長戦略である「九州・沖縄 Earth 戦略Ⅱ」実現の一助として、オープンイノベーションによるモノづくり基盤や先端技術等の事業化を通じたイノベーションの創出に向け、ＫＯＩＣの職員とコーディネータが一緒に九州の研究開発型中小企業を訪問し、技術やビジネスのニーズやシーズを調査・発掘。これらの事業化に向け、企業・大学・産業支援機関とのマッチングを図りプロジェクトメイク。ＫＯＩＣコーディネータがコーディネートする研究会で解決に向けた事業計画の策定などの支援を行い、技術開発等が必要なプロジェクトは国の技術開発補助事業等の活用を図るほか、事業化に向けた展示会出展支援を行い、入口から事業化まで一貫した事業化支援を行った。

※JKA：Japan Keirin Autorace Foundation　自転車・小型自動車公営競技を振興する公益法人。
売上の一部を機械振興と公益事業の振興事業に補助している。

① 委員会、会議等による事業統括・管理

事業の方向性、事業の推進状況等を統括管理する事業推進委員会を開催するとともに、支援プロジェクト毎の進捗、課題の共有を行い、互いにアドバイスを行うコーディネータ会議を開催した。

委員会・会議名	開催日	内容
事業推進委員会	6月6日	2023年度機械工業振興チャレンジ研究調査の審査 2021年度JKA補助事業自己評価Ⅱ審議
	2月16日	2023年度JKA補助事業自己評価Ⅰ審議 2023年度機械工業振興チャレンジ研究調査成果の評価 2024年度JKA補助事業の概要説明
コーディネータ会議	5月16日	2022年度活動実績、2023年度JKA補助事業概要 コーディネート活動について　他
	9月6日	2023年度コーディネート活動実施状況 モノづくりフェアおよびJKA事業成果発表会について　他
	12月11日	2023年度コーディネート活動実施状況 2024年度JKA補助事業の申請内容について　他
	2月29日	2023年度コーディネート活動実施状況 2023年度JKA補助事業自己評価Ⅰについて　他

② コーディネート活動（技術ニーズの発掘、シーズとのマッチング、ブラッシュアップ研究会）

コーディネート活動では、ニーズ調査で中小企業を数多く訪問することが目的化することなく、支援ニーズを抱えてる企業をいかに訪問・発掘し、マッチング、ブラッシュアップ研究会につなげていくかがポイント。

このため、本年度はコーディネータの委嘱人数を１０名に減らし、訪問件数を絞り込んだためニーズ調査・マッチングは年間目標 80 件を下回ったものの、その出口であるブラッシュアップ研究会は目標の１０件を上回る１１件発足（公募の４件を除く）させ、事業全体を効果的に実施することができた。

なお、各プロジェクトは、ブラッシュアップ研究会の結果を踏まえ、改良・改善をフォローするとともに、国等の技術開発補助事業への申請および事業化に向けた支援を行っている。

■活動実績

ニーズ調査（コア技術調査）		マッチング	活動件数計	ブラッシュアップ研究会発足数
	支援ニーズ有			
５８	9	１３	７１	１１

（年間目標）ニーズ調査・マッチング：80 件、ブラッシュアップ研究会発足数：10 件(公募除く)

③ 機械工業振興チャレンジ研究調査（公募）

技術開発の前段階である技術課題や市場の分析を支援する大学・公設試・企業等向けの提案公募事業では、１０件の応募があり、事業推進委員会の審議を経て目標の５件を採択した（うち１件は後日、類似の内容で他の事業に採択されたため辞退された）。

４ 件については、案件毎のブラッシュアップ研究会を開催し、技術的課題の検討、市場動向の分析等を行った結果、いずれも資金獲得や事業化を目指し継続して研究を続けることとなった。

	研究題目	参加機関・企業	成果
1	骨肉腫等の病理診断における安全かつスピーディな骨切断方式の確立	(株)ファインテック (株)ケイ・アイ・ステイナー	次年度継続研究
2	カーボンニュートラルに貢献する超高速研削工具の研究開発	九州工業大学 坂村工作所	次年度継続研究
3	RFID タグ埋込型ガラス器具の開発	(株)クライミング 福岡県工業技術センター化学繊維研究所 九州計測器（株）	次年度継続研究
4	廃材を用いた（エアバック等の）新たなソックスエイドの商品開発	天祐(株) 久留米大学医療センター 久留米大学研究推進戦略センター (株)ワールドグローブ	次年度継続研究

④展示会出展・成果報告会・セミナー

事業化支援として、これまでにブラッシュアップ研究会等で支援した中小企業の技術や製品等を紹介するため、展示会『モノづくりフェア 2023』にスタートアップ企業２社を含む４社の出展を行うとともに、同フェアの中で「機械工業振興チャレンジ調査研究成果報告会」を開催し、販路開拓や業務提携等の事業展開の機会を設けた。

また、オープンイノベーションフォーラムを九州経済産業局と共催で２月 28 日に開催（再掲）するとともに、九州デジタル経営塾、九州ネクストリーダー塾でセミナー等を開催した。

※九州デジタル経営塾、九州ネクストリーダー塾については別掲

開催日	実施概要	参加・進捗状況
10 月 18 日～ 10 月 20 日	モノづくりフェア 2023 に出展 KOIC の支援事例および九州域内中小企業の技術や製品等を紹介し、販路開拓や業務提携等事業展開のチャンスを広げるため出展（KiQ Robotics(株)、(株)九建、田川産業(株)、(株)HaKaL４社出展支援）	フェア来場者数：合計 23,792 名 支援企業４社について、 ・商談成立件数：１件 ・見積提出件数：３件 ・開発/製造/販売における提携件数：１件
10 月 19 日	JKA 補助事業成果発表会開催（モノづくりフェア 2023 内）機械工業振興チャレンジ調査研究の成果を広く紹介	参加者数：28 名
２月 28 日	オープンイノベーションフォーラムを九州経済産業局と共催 Co-Create Future KYUSHU ～中小企業とスタートアップの挑戦～	参加者数：200 名 （会場：　84 名 オンライン：116 名）

(3)成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech 事業※：旧サポイン事業）

特定ものづくり基盤技術（情報処理、精密加工、立体造形等の１２の技術分野）およびＩｏＴ、ＡＩ等の先端技術を活用した高度なサービスに関する研究開発や試作品開発等の取り組みを支援するため、企業の技術と大学・高専・公設試のシーズや専門的知見を結集して行う経済産業省の産学連携型の技術開発補助事業を活用し、開発と事業化を目的としたプロジェクトに事業管理機関としてマネジメントを行った。

今年度は、３件の新規案件（うち１件は２年目から支援）と２件の継続事業（サポイン事業）について、企業・大学・研究機関等の事業進捗状況などの管理・調整役である事業管理機関として効率的な事業運営を行った。

また、過去のサポイン事業１７件の各実施機関に事業化状況のフォローアップ調査を行った。

※Go-Tech 事業：基盤技術分野の新技術・新事業開発を促進する、経産省補助事業
対象は中小企業・大学・高専・公設試
上限３年間 9,750 万円、補助率：中小企業 2/3、公設試等 定額

	分野	件名	補助先	成果
継続	精密加工	車載用半導体デバイスの切断工程の工法転換を実現する刃先先端 R シングルナノメートルの刃物の開発 【2021 年度～2023 年度】	(株)ファインテック 岐阜大学 久留米大学	2021 年度採択事業(サポイン) 3 年計画の最終年度として目標を達成し完了。
	測定計測	土壌汚染を簡易・迅速に分析する重金属検出技術を活用した簡易検出材 OCTES-2 の開発 【2021 年度～2023 年度】	(有)坂本石灰工業所 東京工業高等専門学校 苫小牧工業高等専門学校 熊本高等専門学校 熊本大学	2021 年度採択事業(サポイン) 3 年計画の最終年度として目標を達成し完了。
新規	バイオ	カイコ-バキュロウイルス発現系を用いた経口ワクチンの製造基盤技術の開発 【2023 年度】	KAICO(株) 九州大学	2022 年度採択事業 今年度の計画目標は一部未達だが事業化に向けては確実に進捗。 次年度は別補助金内で研究開発を継続し Go-Tech 事業は終了。
	機械制御	安全性を劇的に向上させる手術支援ロボット用臓器誤接触回避システムの開発 【2023 年度～2025 年度予定】	Ｆ．ＭＥＤ(株) 九州大学	2023 年度採択事業 今年度の計画目標を達成し、次年度も研究開発を継続。
	測定計測	家畜感染症拡大防止を目的とする現場で迅速に判断できる高速・高感度簡易病原体検出キットの開発 【2023 年度～2025 年度予定】	(株)HaKaL 北海道大学 熊本大学 久留米大学 他１社	2023 年度採択事業 今年度の計画目標を達成し、次年度も研究開発を継続。

(4)他機関との連携事業

産業支援機関や公設試のコーディネータやマネージャーとのネットワークを構築し、さまざまな相談等に対する広域的コーディネート活動を支援した。

実施日	事業名	主な内容
７月　４日	ＫＦＣ※特別講演の開催	ＫＦＣの事務局として総会、講演会を開催
11 月 22 日	KFC ｾﾗﾐｯｸｽ研究交流セミナーの開催	ＫＦＣの事務局としてセミナーを開催
10 月　５日	九州・沖縄産業技術オープンイノベーションデー参画	（国研）産業技術総合研究所九州センターが最新の技術開発等の情報提供、各県公設試の支援事例紹介、支援機関間の情報交換および研究成果の民間企業への橋渡しに繋げるための交流の場として開催 ＫＯＩＣも九州全体を対象エリアとする支援機関として参画

※九州ファインセラミックス・テクノフォーラム

３．啓発普及事業

(1)ソーシャルイノベーション実践交流会

持続的な成長や ESG 投資への対応の重要性が指摘される中で、さまざまな社会的な課題について事業を通して解決していくことは、企業価値を高めるとともに、新たな分野を切り拓くことにも繋がる。

従来は市場として認識されていなかった分野に着目し、九州大学ユヌス＆椎木ソーシャルビジネス研究センターと連携して、具体的なソーシャルビジネスの企画と実践を通してイノベーションを起こしていくことを目指す「社会課題解決型ビジネスを構想するソーシャルイノベーション実践交流会」を開講した。

セミナー、ワークショップならびにフィールドトリップなど充実した内容を 6 回に亘り実施し、ソーシャルビジネスへの関心をもった製造業、小売業、サービス業、建設業、情報通信、金融業、インフラ関連業種など多種多様な業種の人材が参加した。

開催日	実施概要
6月28日 参加者:27名	『ソーシャル・ビジネス概論』 1.開会挨拶 2.九州大学ｺﾞﾖｽ&椎木ｿｰｼｬﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽ研究ｾﾝﾀｰ ｾﾝﾀｰ長挨拶並びにｾﾝﾀｰの概要 九州大学ｺﾞﾖｽ&椎木ｿｰｼｬﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽ研究ｾﾝﾀｰ ｾﾝﾀｰ長　星野 裕志 氏 3.参加者自己紹介 4.ソーシャル・ビジネス概論 九州大学ｺﾞﾖｽ&椎木ｿｰｼｬﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽ研究ｾﾝﾀｰ ｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　岡田 昌治 氏 5.交流会
8月30日 参加者:28名	『ソーシャル・ビジネス事例』 1.ソーシャル・ビジネスの事例 九州大学ｺﾞﾖｽ&椎木ｿｰｼｬﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽ研究ｾﾝﾀｰｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　岡田 昌治 氏 2.有限会社　トラストの事例　代表取締役　小野 祐紀香 氏 3.株式会社　マイソルの事例　代表取締役CEO　福澤 久 氏 4.株式会社　数寄屋の事例　代表取締役　平田 央 氏 5.Q&Aおよび総括 6.交流会
10月23日 参加者:25名	『休眠預金活用制度プロジェクト』 1.休眠預金を活用したソーシャル・イノベーション 九州大学ｺﾞﾖｽ&椎木ｿｰｼｬﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽ研究ｾﾝﾀｰｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　岡田 昌治 氏 2.休眠預金活用制度プロジェクト事例紹介 九州大学ｺﾞﾖｽ&椎木ｿｰｼｬﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽ研究ｾﾝﾀｰｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　岡田 昌治 氏 3.意見交換とQ&A 4.交流会
11月27日 参加者:21名	『フィールドトリップ』 1.㈱ボーダレスジャパン福岡本社（福岡市中央区天神3-1-1） 2.㈱ヒューマンハーバーある蔵若草工場（糟屋郡宇美町若草2-17-1）
1月24日 参加者:15名	『ワークショップ』 1.ソーシャルビジネス事例集によるケーススタディ 九州大学ｺﾞﾖｽ&椎木ｿｰｼｬﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽ研究ｾﾝﾀｰ　星野 裕志 氏 2.ソーシャルビジネス創出のプレゼンテーション 九州旅客鉄道株式会社　吉岡 大貴 氏 チホズスタジオ　鎌田 千穂 氏
2月5日 参加者:24名	『ワークショップおよび総括』 1ソーシャルビジネス創出のワークショップ（グループワーク） 九州大学ｺﾞﾖｽ&椎木ｿｰｼｬﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽ研究ｾﾝﾀｰｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　岡田 昌治 氏 2.グループワークの発表 3.まとめ・総括 九州大学ｺﾞﾖｽ&椎木ｿｰｼｬﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽ研究ｾﾝﾀｰ　星野 裕志 氏 九州大学ｺﾞﾖｽ&椎木ｿｰｼｬﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽ研究ｾﾝﾀｰｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　岡田 昌治 氏 4.交流会

(2)九州経済を考える懇談会

九州の経済６団体※のトップが一堂に会し、「九州経済のあり方や課題および具体的な政策」を議論し、九州戦略会議・九州知事会および国等へ意見具申・要望を行う懇談会を共同事務局の(一社)九州経済連合会および(公財)九州経済調査協会と連携して開催した。

※（一社)九州経済連合会会長、（一財)九州オープンイノベーションセンター会長、九州商工会議所連合会会長、九州経済同友会代表委員、九州経営者協会会長、（公財)九州経済調査協会理事長

(3)地域技術交流事業

① 九州・沖縄地区国立大学法人産学官連携関連センター長等会議

九州・沖縄地区の国立大学法人と産業界等との研究業務の円滑な遂行を図ることを目的に、関連法人と当財団がネットワークを構築し、産学官連携に関する現状と課題、協力体制等について意見交換を行った。今年度は熊本大学が当番校（議長）となり、参加者は９大学、６機関から２５名が参加した。

開催日	場所	意見交換テーマ
12 月 1 日	熊本市	・産学連携人材の確保、育成、共有について ・JST「共創の場形成支援プログラム」への提案・採択について

(4)カーボンニュートラル（CN）普及啓発事業

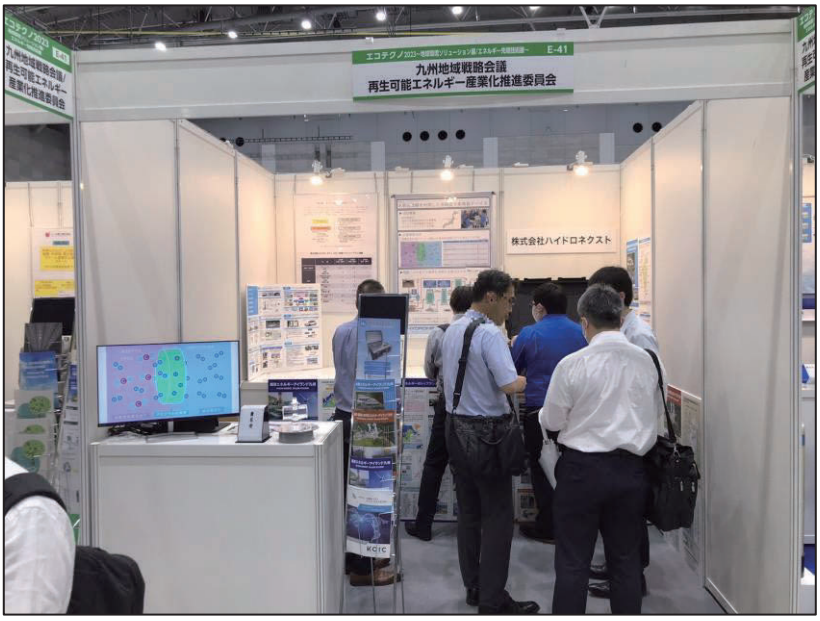
カーボンニュートラルを推進するため、九州経済連合会等と連携し、「再生可能エネルギーの産業化を目指すアクションプラン（九州モデル）」実現のため、展示会への出展(次表①)、検討会・委員会を開催(次表②)した。

また、Ｋ－ＲＩＰと連携し、9 月に昨年訪問した台湾から經濟部中小企業處の吳 佳穎 副處長を団長とする訪日ミッションを受け入れ、「日台グリーンサスティナブルおよびスタートアップ交流会」(次表③)を開催し、カーボンニュートラルの推進等に関する意見交換を行った。

さらに、カーボンニュートラルにつながる海外事業展開の支援として、１月に環境事業等を展開している参加企業８社および行政機関２者とベトナム・ホーチミン市等を訪問し、現地企業・政府機関と商談や意見交換を行った(次表④)。

① 展示会出展

展示会名称	開催日	開催場所	内容
エコテクノ 2023	7 月 5 日 ～7 日	西日本 総合 展示場 (北九州市)	・「再生可能エネルギー産業化推進委員会」の活動・取り組みの紹介 ・大分県企業の高純度水素精製装置のデモ機展示 ・全体来場者数：約 18,000 名 当ブース訪問者数：約 120 名



② 会議開催

会議名	開催日	開催場所	内容
再生可能ｴﾈﾙｷﾞｰ産業化推進委員会	第１回 10月２日	九経連	委員長：九州大学名誉教授　安浦 寛人 氏 講演「洋上風力発電事業の取組みについて」 九電みらいエナジー㈱　担当部長 中 伸介 氏 出席者：28名
	第２回 3月14日		委員長：九州大学名誉教授　安浦 寛人 氏 講演「九州洋上風力産業関連ﾈｯﾄﾜｰｸの活動について」 九州経済産業局　課長補佐 樋口 一郎 氏 出席者： 23名
水素ｴﾈﾙｷﾞｰ産業化実務者会議	第１回 7月14日	オンライン	座長：九州大学大学院工学研究院　教授 伊藤 衡平 氏 講演「燃料電池小型トラック取組み」 ㈱ローソン　有吉 孝治 氏 出席者：32名
	第２回 1月18日 19日	鹿児島市 霧島市	座長：九州大学大学院工学研究院　教授 伊藤 衡平 氏 講演「ｶｰﾎﾞﾝﾆｭｰﾄﾗﾙの実現に向けた基礎知識」 佐賀県再生可能エネルギー総括監 大野 伸寛 氏 「水素社会実現に向けた国内外の動向」 九州大学特任教授 横本 克己 氏 施設見学：鹿児島市南部清掃工場、日本ガス LNG 基地、京セラきりしま R＆D センター 出席者：29名
地熱・温泉熱ｴﾈﾙｷﾞｰ産業化実務者会議	第１回 8月30日 31日	指宿市	座長：九州大学大学院工学研究院　教授 藤光 康宏 氏 施設見学：ﾒﾃﾞｨｱﾎﾟﾘｽ指宿発電所 九州電力㈱山川発電所 出席者：20名
	第２回 2月28日 29日	大分市 九重町	座長：九州大学大学院工学研究院　教授 藤光 康宏 氏 講演「ｴﾈﾙｷﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ運営を通じて得た成果と課題について」 大分ベンチャーキャピタル㈱統括課長　三浦哲郎氏 施設見学：大林組グリーン水素製造実証プラント 愛彩ファーム九重 出席者：25名
海洋ｴﾈﾙｷﾞｰ産業化実務者会議	第１回 8月31日	鹿児島市	座長：佐賀大学海洋ｴﾈﾙｷﾞｰ研究所　教授 池上康之 氏 出席者：19名
	第２回 2月21日	鹿児島市	座長：佐賀大学海洋ｴﾈﾙｷﾞｰ研究所　教授 池上康之 氏 講演「洋上風力の政策動向について」 資源エネルギー庁風力政策室　山本純平 氏 「海洋エネルギーに関する当社事業のご紹介」 九電みらいエナジー㈱部長　磯部暁宏 氏 出席者：18名

③ 日台グリーンサスティナブルおよびスタートアップ交流会

開催日	開催場所	内容
9月11日	宮前迎賓館 灯明殿 （福岡市）	・出席者　台湾側：8名、オンライン参加6社 日本側：18名 ・次　第　カーボンニュートラル推進に関する施策や課題について意見交換を行った後、台湾のスタートアップ企業からの事業紹介等を行った。

④ ベトナムミッション

期　間	参加者	内容
1月14日 ～20日	企業8社、行政機関2者	・現地企業・政府機関と商談や意見交換を26回実施 ・参加企業2社が、現地の大学・農業生産法人と「有機資源の循環促進に向けた連携協定」を、現地企業と「技術移転検討のための機密保持契約」をそれぞれ締結

４．人材育成事業

(1)九州デジタル経営塾

九州の経済６団体※が連携して、企業経営のデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）に取り組む経営層を対象とした「九州デジタル経営塾」（2021（令和３）年度、2022（令和４）年度に九州各県で実施）のフォローアップを中心としたワークショップを北部九州、中九州、南九州の３箇所で開催した。

内容はグループワークを中心にデジタルと経営を学びながら、経営者同士の交流を深め、自社におけるＤＸ推進の可能性について考え、ＤＸ実装の気づきや 決意を得ていただく場を提供したもの。終了後に交流会を実施した。３箇所全体で９１名が参加し、参加者へのアンケート調査の結果では総合満足度８７％と大変良好な結果が得られた。

※（一社)九州経済連合会、（一財)九州オープンイノベーションセンター、九州商工会議所連合会、九州経済同友会、九州経営者協会、（公財)九州経済調査協会

開催日／場所	内容
6月7日 宮崎市 参加者：30名 總合満足度：92%	○プログラム ・開講挨拶　一般財団法人　九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 会長　瓜生 道明 ・来賓挨拶　宮崎県　総合政策部産業政策課長　守部 丈博 氏 ・基調講演　㈱ＤＸパートナーズ 代表取締役　村上 和彰 氏 ・ＤＸ事例　高石餅店/ネクストクリエイション 代表取締役　清藤 貴博 氏 ㈱ジャパンファーム 代表取締役社長　増田 智行 氏 ・ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ　㈱ＤＸパートナーズ 代表取締役　村上 和彰 氏 同　アドバイザリーパートナー　徳永 美紗 氏 ・閉講挨拶　一般財団法人　九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 常務理事　山田 真治 ・交 流 会
8月２８日 熊本市 参加者：28名 總合満足度：74%	○プログラム ・開講挨拶　一般財団法人　九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 会長　瓜生 道明 ・来賓挨拶　熊本県 理事(デジタル戦略担当)/企画振興部ﾃﾞｼﾞﾀﾙ戦略局長 小金丸 健 氏 ・基調講演　㈱ＤＸパートナーズ 代表取締役　村上 和彰 氏 ・ＤＸ事例　㈱三松 代表取締役社長　田名部 徹朗 氏 ㈱アネシス 経営戦略本部 部長　木下 裕之 氏 ・ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ　㈱ＤＸパートナーズ 代表取締役　村上 和彰 氏 同　アドバイザリーパートナー　徳永 美紗 氏 ・閉講挨拶　一般財団法人　九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 常務理事　山田 真治 ・交 流 会
１０月２７日 福岡市 参加者：33名 總合満足度：93%	○プログラム ・開講挨拶　一般財団法人　九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 会長　瓜生 道明 ・来賓挨拶　福岡県 商工部商工政策課技術人材育成室長　坂井 智明 氏 ・基調講演　㈱ＤＸパートナーズ 代表取締役　村上 和彰 氏 ・ＤＸ事例　風月フーズ㈱ 代表取締役社長　福山 剛一郎 氏 ㈱サンキュードラッグ 経営企画室長　藤井 孝太郎 氏 ・ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ　㈱ＤＸパートナーズ 代表取締役　村上 和彰 氏 同　アドバイザリーパートナー　徳永 美紗 氏 ・閉講挨拶　一般財団法人　九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 常務理事　山田 真治 ・交 流 会

(2)九州ネクストリーダー塾

中小企業や団体の経営幹部およびネクストリーダー層を対象として、「ＤＸとオープンイノベーション」をテーマに『九州ネクストリーダー塾 2023』を開催した。

ビジネスモデル編ではグローバル化・デジタル化が進む経済社会の変化や事業ドメインの再定義など、今後の経営改革や新規事業を立案する構想力と実行段階で不可欠な行動力について、具体的な事例研究を通して理解を深めるとともに、スキル編では現代のネクストリーダーに不可欠なデータサイエンスの基礎を学んだ。全てオンライン開催とし計４回の開催で延べ２２７名が参加した。

アンケートでは、ビジネスモデル編は高評価だったものの、スキル編「データサイエンス基礎」は満足度が低かった。特に、Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用したグループワークにおいて、「ディスカッションの課題設定が広すぎ、討議しづらかった」「ディスカッションの時間が足りなかった」などの意見をいただき、次年度以降の課題となった。

回数	開催日	内容
第１回	６月 22 日 ６月 29 日	ビジネスモデル編　「イノベーションとアントレプレナーシップ」 講　師：九州大学大学院教授　　高田　仁　氏 参加者：延べ１２５名 満足度：９５％（大いに満足 28%　満足 67%）
第２回	７月 20 日 ７月 27 日	スキル編　　「データサイエンス基礎」 講　師：㈱ＡＩＢＯＤ　ＣＥＯ　松尾　久人　氏 〃　　ＣＴＯ　トルヴェ・アントワン　氏 参加者：延べ１０２名 満足度：５２％（大いに満足 11%　満足 41%）

(3)若手研究者海外研究交流支援事業

電力・エネルギー分野における九州の若手研究者の国際的な感覚や海外との人的ネットワーク構築により九州の研究分野のグローバル化を図ることを目的に、大学・高専に所属する工学系・理学系の若手研究者の長期・短期留学および国際研究集会参加を支援している。

今年度は、外部委員で構成する選考委員会で選考の結果、後期の国際研究集会に６件の研究発表を、次年度前期の長期国外留学に１名を採択した。

区分	発表件名／発表者所属・役職	渡航先	渡航期間	助成金額（千円）
国際研究集会（後期）	表面放電を用いたシリコーンゴムの劣化度の短時間評価技術 (宮崎大学大学院 農学工学総合研究科 博士課程後期２年)	グラスゴー（イギリス）	７日間	350
	導電性被覆ＰＥＴフィルム上の火花放電前の放電進展に対する表面抵抗率の影響 (福岡大学 工学部 電気工学科 助手)	グラスゴー（イギリス）	９日間	350
	銅焼結繊維伝熱面における熱流束上昇 (佐賀大学 理工学部機械工学部門 助教)	パドヴァ（イタリア）	５日間	280
	機械学習による防災点検記録を用いた道路沿い岩盤斜面の管理に関する研究 (九州大学大学院 工学研究院附属ｱｼﾞｱ防災ｾﾝﾀｰ 助教)	ｻﾞﾙﾂﾌﾞﾙｸﾞ（ｵｰｽﾄﾘｱ）	６日間	320
	単一酸素官能基を有する酸化グラフェンの開発とガスバリア膜への応用 (熊本大学大学院 自然科学教育部工学専攻 博士課程後期１年)	ボストン（アメリカ）	８日間	350

	Fe-Cr-Ni オーステナイト合金中の水素溶解エネルギーに関する第一原理計算：Cr と Ni 量の影響 (九州大学大学院 工学府機械工学専攻 博士課程後期 2 年)	フンシャル (ポルトガル)	１１ 日間	350
長期国外留学（次年度・前期）	静電容量センサの力感知の拡大のための誘電体設計 (福岡工業大学大学院 工学研究科電気工学専攻 修士課程 1 年)	ﾊﾞﾝｸｰﾊﾞｰ （カナダ）	8 か 月	2,350

5．情報提供事業

各種手段・機会を利用してＫＯＩＣの認知度向上を図った。

(1) デジタルメディアを活用した情報発信

ＫＯＩＣ設立後３か年が経過したことから、これまでの活動を紹介するプロモーションビデオを作成し、配信を行った。

ホームページ、メールマガジンならびにＦａｃｅｂｏｏｋやＹｏｕＴｕｂｅ等のＳＮＳも活用し、イベント・セミナー情報、関連施策等の公募情報等の発信を行った。また、会員やユーザーがワンストップで情報が得られるようホームページにオープンイノベーションに関係する団体、ＫＯＩＣと関係の深い団体等とのリンクを設定し、情報アクセスの利便性を図った。

イベント・セミナー等は、より多くの皆様に参加いただけるようコロナ禍において普及したオンライン形式やハイブリット形式での開催を積極的に行った。

主な内容	HP 更新：54 回、メルマガ配信（定期）：26 回、メルマガ配信（事業個別）：43 回、Facebook 配信：31 回、他

(2)活字媒体による情報発信

ＫＯＩＣ設立時に作成したパンフレットの記載内容を、現在の事業名等へ修正するとともにわかりやすい表現に変更する等、改訂を行った。

ＫＯＩＣの活動内容と成果をまとめた「ＫＯＩＣ年報（Year Book 2022）」を作成し、役員や賛助会員、訪問企業等に配布した。

６．収益事業

(1)成功報酬型コーディネート事業

成功報酬型コーディネータが多方面から企業情報を集め、事業課題を抱える中小企業に出向き、経営層と面談して、合意の上で、事業計画の策定から知財戦略・販路の探索とマッチングまでを伴走型で支援するコーディネート事業を 2015（平成 27）年度から実施している。

具体的には、成功報酬型コーディネータが企業に対し、定期的なコンサルタント、知財の取得と売却、試作の実施、利益の発生等、コーディネート活動が成功した場合、ＫＯＩＣが報酬を受け取る成功報酬事業であり、成功報酬型コーディネータと経営層との信頼関係と緊張感を備えた実践的かつ継続的なコーディネート事業である。

今年度は契約継続中の企業支援を中心に７６件のコーディネート活動を行い、１３件の契約により、８１６万円の成功報酬収入があった。なお、雇用していたコーディネータが独立したため、今年度からその設立した会社に業務を委託して事業を行っている。また、人材紹介会社を通して専属のコーディネータを求人中である。

① 活動実績

区分	令和５年度（件数）	内容
新規企業発掘	2	優位な技術を有し、新製品開発・市場開拓を目指す中小企業の調査・発掘等
契約前 プレ支援事業	0	要素技術・コア技術の発掘 事業化の課題等の抽出と解決方法等の提示 知財の有効活用等の提示等
契約後支援事業	７４	事業化計画の検討 知財活用先、試作先、共同開発相手、販売先等の探索と交渉 成功報酬契約項目の実践等
合計	７６	－

② 成功報酬型の契約と報酬実績

契約を継続している１３件のうち８件は、月１～２回訪問やＷｅｂ等で相談、アドバイスを行い成功報酬を獲得した。５件は具体的な支援課題が現在は無く、契約更新を一旦停止中。

資金獲得を目指し、経済産業省「事業再構築補助金」に２件新規申請支援を行っている。また、昨年度採択された４件の事業が円滑に進むよう支援を行っている。

■成功報酬額

	令和５年度
成功報酬額（千円）	８，１５８千円

■2015（平成 27）年度～令和 2022（令和４年度契約分　１３件　（継続契約）

企業	支援事業	支援内容	成功報酬
A 社	販路開拓支援	・製品化支援 ・製品販売	・試作品開発 15 万円/件 ・当該製品の利益の 10% 一旦停止中
B 社	ロボット開発支援 新規事業に係る支援	・試作品の開発 ・特許等の知財対応 ・量産体制の構築 ・製品販売 ・ﾌﾞﾗﾝﾃﾞｨﾝｸﾞﾏｯﾁﾝｸﾞ支援 ・販路開拓支援	・試作品完成時 50 万円 ・特許登録時 5 万円/件 ・量産ライン完成時 50 万円 ・当該製品の利益の 20% ・マッチング契約 50 万円/件 ・建築契約の利益の 20%
C 社	新規事業に係る支援 販路開拓支援 事業購入 資金獲得支援	・開発コンサル ・顧客開拓 ・許認可取得支援 ・資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援	・開発コンサル料 50 万円/年 ・当該製品の利益の 10% ・事業買収金額の 10% ・医療許認可申請 5 万円/回 ・獲得資金の 5%
D 社	事業化支援	・原価計算 ・製造技術管理 ・試作費用計算	・当該事業の利益の 20% 一旦停止中
E 社	知財戦略 新規事業に係る支援 資金獲得支援	・知財戦略の立案、実行 ・資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援	・10 万円/月 ・獲得資金の 5%
F 社	事業化支援	・販路開拓支援 ・知財戦略支援	・開発製品の利益の 15% ・特許出願３万円/件
G 社	事業化支援 資金獲得支援	・製品開発支援 ・事業化ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ ・新事業創出 ・資金獲得申請支援	・10 万円/月 ・獲得資金の 5%
H 社	事業化支援	・製品開発支援 ・事業化ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ ・新事業創出	・10 万円/月（４か月） ・具体的支援内容発生まで 一旦停止中
I 社	共同研究開発・技術提携支援 事業有償譲渡	・資金提供契約支援 ・有償譲渡契約支援	・提供支援、提携料の 20%
J 社	資金獲得支援	・資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援	・着手金 10 万円×2 か月 ・獲得資金の 10%
K 社	資金獲得支援	・資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援	・着手金 10 万円×2 か月 ・獲得資金の 10% ・具体的支援内容発生まで 一旦停止中
L 社	資金獲得支援	・資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援	・着手金 10 万円×2 か月 ・獲得資金の 10%
M 社	資金獲得支援	・資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援	・着手金 10 万円×2 か月 ・獲得資金の 10% 一旦停止中

以　上

◎　戦略産業の振興（ 2023 年度の K-RIP、HAMIQ の事業概要 ）

● 九州成長産業戦略を実現すべく、クリーン（環境・エネルギー）、ヘルスケア〈医療機器・サービス）の新事業創出を支援するため、各推進組織（K-RIP、HAMIQ）における情報提供、研究会、マッチング、技術開発、販路拡大、海外展開等の新事業創出事業の支援を行った。

(2024.3.31 現在)

産業分野		環境・エネルギー	医療機器・サービス
推進組織		**K-RIP** 九州環境エネルギー産業推進機構	**HAMIQ** 九州ヘルスケア産業推進協議会
会　員		・総数 270 うち有料会員 204	・総数 164 うち有料会員 98
体　制		・部長、部長 ・マネージャー　1 人	・部長、次長 2 人 ・マネージャー等 3 人
実施事業	会費	総会・役員会・企画部会・講演会 エコ塾（年4回） 研修交流会 ASEAN 交流事業（ベトナムへのミッションの派遣等） 会員企業の相談・マッチング支援	総会・幹事会・講演会 ヘルスケア産業づくり貢献大賞 情報誌ヘルスケアNEXT発刊 九州アライアンス会合開催 会員企業の相談・支援
	外部資金	① カーボンニュートラルにつながる海外事業展開の支援 ・台湾訪日団との交流会の開催 ・ベトナムへのミッションの派遣 ② 地方自治体の地域課題解決の支援 ・意識啓発セミナーやワークショップ、企業とのマッチング会の開催等 ③ 中小企業におけるESG経営推進の支援 ・意識啓発セミナーの開催や伴走支援の実施等 ④ 環境関連企業のベトナム、タイにおける事業展開の支援 ・オンライン商談、意見交換の実施等 ⑤ グリーンテック関連企業のベトナムにおける事業展開の支援 ・ミッションの派遣やオンライン商談の実施等 ⑥ 脱炭素関連企業のインドネシアにおける事業展開の支援 ・ミッションの派遣やオンライン商談の実施等	① 医工連携による医療機器発・部材開発の支援 ・医療機器製造業と医療現場のマッチング （Web マッチング） ・開発案件の販路開拓（学会の展示会）、協業企業とのマッチング ② 大学発開発案件の事業化コンサルティング ③ 公的助成金申請支援 ・Go-TECH、AMED 等 ④ 医療機器開発支援人材育成プログラム ⑤ 医療業界基礎知識の動画コンテンツ作成・公開 ⑥ 九州各県の自治体・大学との連携強化 ⑦ 企業の優れた技術を写真・動画で発信 ⑧ マーケッティングツールの活用で市場調査 ⑨ 海外事業展開支援（海外展示会への出展支援）

参　考　資　料

ＫＯＩＣ　２０２４（令和６）年度　事業計画の概要

◆ ＫＯＩＣ　２０２４（令和６）年度　事業計画の概要

◇社会課題の解決と新市場等の創出を同時達成する先導地域九州の実現に向け、オープンイノベーションの「場」の提供と事業化等の「コーディネート」を推進

◇VUCAの時代を生き抜くためのSDGｓ／CSV経営の視点および喫緊の課題であるＧＸ、CNへの対応に着目した、中小企業が取り組むべき課題への気付きの場の提供や人材の育成に取組むと共に、大学発ベンチャー支援、技術開発の企画段階から事業化まで一貫した伴走支援に取組む。

下線：令和５年度からの変更箇所／ No. →黒:振興支援事業、紫:産業技術振興事業、青:啓発普及事業、赤:人材育成事業、緑:情報提供事業、黄:収益事業

川上領域

STEP１：イノベーションの気付きを発信・普及する
（GX・CN、CSV経営等の新しいビジネスの気付きの提供）

1 世界のオープンイノベーション拠点との交流事業
◆東南アジアからのミッション受入れ
◆過去のミッション派遣先のフォロー

2 地域・社会課題解決の担い手支援のためのエコシステム創出事業
（九州SDGs経営推進フォーラムとの連携）
◆中間支援団体に着目したゼブラ企業を支援するエコシステムの普及啓発

3 カーボンニュートラル実現に向けた脱炭素経営普及促進事業
◆九州経済産業局と連携して、脱炭素経営に取り組んでいる先行事例の成功要因を分析し、セミナー等で横展開を図る

4 グリーントランスフォーメーション（GX）研究会
◆九州大学グリーンテクノロジー研究教育センター等と連携し、GX実現のためのセミナー等開催（産学官連携のGX研究会設置を目指す）

5 社会課題解決のためのソーシャルイノベーションプロジェクト
◆昨年度の「実践交流会」で提案されたプロジェクトを伴奏支援し、実証実験を行いながら新たなソーシャルビジネスの創出を目指す

6 九州経済を考える懇談会（九州経済の課題と解決に向けた意見交換）
◆九州６経済団体のトップ会談、経済界の共同事業推進

7 地域技術交流事業
（九州・沖縄地区国立大学法人産学官連携関連ｾﾝﾀｰ長等会議）
◆国立大学法人と産業界等との共同研究推進についての意見交換

8 カーボンニュートラル普及啓発事業
◆九経連、K-RIPと連携し展示会出展や中小企業向け啓発セミナー実施

9 情報提供事業
◆デジタルメディア、活字媒体の活用による当センターの認知度向上

企業変革・社会変革を推進する人材投資・支援

STEP２：イノベーションを進める人材を育成する
（GXの視点、ＡＩを活用したイノベーション推進人材の育成）

10 九州ネクストリーダー塾（Webとの併用）
◆ＡＩをテーマに環境変化やデジタル化等の新たなビジネス潮流を理解し柔軟な発想とスピード感を持った次代の変革リーダー育成支援

11 若手研究者海外研究交流支援事業
◆電力・エネルギー分野の若手研究者のグローバルネットワーク構築（国際会議、留学支援）

各事業の参加企業のニーズ把握・事業化への繋ぎ

川下領域

STEP３：イノベーションのニーズ・シーズを探求し、繋いで、事業化する
（事業化のためのコーディネート）

1 九州・大学発ベンチャー育成支援事業（九州・大学発ﾍﾞﾝﾁｬｰ振興会議）
◆九州の大学研究シーズの起業化支援。企業の事業ニーズに対する大学からのシーズ（解決する研究成果）提案とのマッチング
◆ＪＳＴ事業との連携、新規会員企業募集等によるエコシステム及び体制の充実・強化

2 九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト支援事業
（九州NBCとの連携）
◆九州の大学・高専の学生を対象としたベンチャービジネスプランコンテストの開催及び起業支援

3 九州の戦略産業の振興（戦略産業クラスター組織：K-RIP、HAMIQ）
◆環境・エネルギー、医療機器・ヘルスケア分野の産業振興組織の運営支援

実施主体間の情報共有・連携

【新事業の掘り起こしから研究開発・上市に至るコーディネート】

4 オープンイノベーションセミナー等の開催
◆オープンイノベーションセミナー等で新事業創出支援

5 九州イノベーション創出戦略会議(KICC)
◆九州の大学、高専、公設試、産業支援機関等６１機関の連携による、開放機器の利用促進、企業の技術的課題の解決に向けたコーディネータ間の連携

6 九州Earth戦略Ⅱ実現に向けた新事業創出事業（JKA補助事業）
◆コーディネータと職員による企業ニーズ・シーズの訪問調査
◆マッチング支援、ブラッシュアップ研究会、技術開発支援、事業化支援
◆スタートアップ支援

7 成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）
◆産学連携型技術開発による新製品・サービス、ビジネスモデル等の開発
◆事業化を見据えた産学プロジェクトの組成（売り先、ユーザーの参画）

8 他機関との連携事業
◆産総研九州センター、中小機構九州本部等と連携した技術相談

9 成功報酬型コーディネート事業
（ニーズ・シーズの発掘から事業化まで伴走支援）
◆経営者に寄り添ったコーディネート活動による新事業開発･新市場獲得支援
◆企業の課題を解決する提案と成果報酬を受け取る契約締結

KOIC
KYUSHU OPEN INNOVATION CENTER

一般財団法人
九州オープンイノベーションセンター

〒812-0013　福岡市博多区博多駅東2丁目13番24号

総　務　部	TEL 092-411-7391（代）	FAX 092-472-6609
技術振興部	TEL 092-411-7394	FAX 092-472-6688
イノベーション推進部	TEL 092-411-7354	FAX 092-472-6609
	URL https://www.koic.or.jp/	E-mail info@koic.or.jp

九州環境エネルギー産業推進機構（K-RIP）
Kyushu Renewable Energy and Environmental Industry Promotion Association
〒812-0008
福岡市博多区東光2丁目7番25号［㈱正興電機製作所 本社ビル内］
TEL 092-474-0042　FAX 092-985-0055
URL https://k-rip.gr.jp　E-mail info@k-rip.gr.jp

九州ヘルスケア産業推進協議会（HAMIQ）
The organization to promote the Health-Care And Medical device Industry in K(Q)yushu
〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2丁目13番24号［（一財）九州オープンイノベーションセンター内］
TEL 092-411-7450　FAX 092-472-6609
URL https://hamiq.koic.or.jp　E-mail hamiq.info@koic.or.jp

賛助会員制度のご案内

当財団は、九州地域の産業技術振興事業等を円滑に推進するために、賛助会員制度を設けています。
活動趣旨にご賛同の方は、是非賛助会員にご入会いただきますようお願い申し上げます。

◎ 会 費※

1口10万円(1口以上)

※会費期間は4月～翌3月までの1年間です。

◎ 入会手続き

下記のホームページから「入会申込書」をダウンロードいただくか、または、センター事務局(092)411-7391にご連絡くだされば「入会申込書」をお送りいたします。

https://www.koic.or.jp/outline/application/